

28年1月研修会
「大神神社初詣と三輪山登拝」

資 料

奈良・人と自然の会

歴史文化クラブ
(1月12日)

行程表

9:10 JR 三輪駅 駅前広場 集合

「大神神社」に初詣

「狭井神社」から三輪山に登る。

(登り1時間、下り45分ほどの往復2時間半)

(参拝)

少彦名神の「磐座神社」、

知恵の神「久延彦神社」、

大田田根子の「大直彌子神社」

(昼食): 新年会を兼ねて

鳥居前の「福寿堂」で「三輪そうめん」と「三諸の神酒」

歴文クラブ 1 月度研修会

大神神社初詣と三輪山登拝

平成 28 年の初詣として大神神社にお詣りします。

御祭神は「大物主大神」、配祀は「大己貴神」「少彦名神」です。

大三輪の神は国作りの神様であり、また医薬・酒造・方除等人間生活全般の守護神として、大和国一宮、三輪明神と親しまれ、広くそのご神威を仰がれています。

当日は拝殿に昇殿し、古来より行われてきたように拝殿の奥に建つ「三ッ鳥居」を通してお山を拝む予定です。

その後「狭井神社」から三輪山に登ります。

登り 1 時間、下り 4 5 分ほどですが往復 2 時間半を予定しています。

イヌザンショウの大木の群生など珍しい植生が見られます。

麓から「辺津磐座」（少彦名神）、「中津磐座」（大国主神）、頂上には「奥津磐座」（大物主神）、高宮神社（大物主の御子・日向御子神）が祀られています。

下山後、少彦名神の「磐座神社」、知恵の神「久延彦神社」、大田田根子の「大直彌子神社」を参拝し、昼食は鳥居前の「福寿堂」で「三輪そうめん」と「三諸の神酒」で簡単な新年会とします。

日本書記に麓の高橋邑の活日（いくひ）を大神神社の酒造りとしたとあり、大田田根子に大神神社を祀らせたその日、活日は神酒を造って崇神天皇に奉り、次の歌を詠みました。

「此の神酒は 我が神酒ならず 倭成す 大物主の醸みし

神酒 幾久幾久」

大物主が造った神酒と称えています。

三輪山

奈良盆地（国中）の東側・東山中の南端に位置し、標高467m・周囲16kmの美しい円錐形の山容で、『古事記』や『日本書記』には三諸山・御諸山・三諸岳等と称され、太古から神が鎮まる山として崇められる**神体山**。山に茂る木々の一本一本まで神が宿ると考えられ、今なおその木々に斧を入れる事は許されません。山体の地質は「角閃斑礫岩（カゲハルイガ）苦鉄質鉱物」の岩の層で、大量に鉄分を含み浸食に強い性質のため、当時より山容を維持している。三輪山が最も美しく見えるのは中和～南和より見る姿で、その頂きから朝日が昇る時が荘厳に感じられ、神が住まわれる『**神奈備山**』として、弥生時代から信仰の対象とされてきた。山中に入ると古杉の大木が鬱蒼と茂り、「三輪の神杉」と称えられている。**辺津磐座**から中腹には**中津磐座**が在り、山頂には**奥津磐座**が迎えてくれる。これらの巨石群は天から神が降臨し、滞在されるという古代祭祀の遺跡で、磐座信仰の対象となっていた。山頂には大神神社の摂社・高宮神社が祀られる。

山中は浄域のために**禁足地**として守られ、三輪山登拝は摂社「狭井神社」で三輪山参拝証を得て入山する。



大神神社

祭神 大物主神

大和国の一の宮。『古事記』に「倭の青垣 東の山上に斎(イツ)きまつれ」、『日本書記』には崇神天皇（10代）の御世、疫病が蔓延して民衆の多くが命を落とす惨状に困り果てた天皇の夢枕に、大物主大神が現れ、『**意富多多泥古**（イフタツネコ）<大物主の曾孫>を**神主**に、御諸山（三輪山）に私を祀りなさい』と告げられ、大三輪の神を祀られた処、疫病は止み、天下泰平となった事から、神の山と崇められる。

『**大三輪鎮座次第**』には「古来宝倉なく、唯三箇鳥居あるのみ、**奥津磐座**は大物主大神、**中津磐座**は大己貴命（オホミキミノミコト）、**辺津磐座**は少彦名命」とあり、本殿は無く、奥津・中津・辺津の磐座を神の依代として、神体山である三輪山を拜む古来の信仰形態を継承しており、我が国最古の神社です。



現在の拜殿は寛文四年（1664年）に徳川四代将軍家綱が再建したもので、重要文化財に指定。拜殿の奥正面に有る**三つ鳥居**は、**三輪鳥居**とも呼ばれ古来当社の特色の一つとされる。

大神神社の社紋は三本の杉の木が横並びに描かれ、古代地名である**大御輪の神無備・真穂三諸山・甘嘗備の三諸山**に由来し、神の森の浄域を表している。



磐座神社（少彦名神社） 辺津磐座の一つ

祭神 少彦名神

社殿が無く、神の鎮まる堅固な磐座をご神坐として少彦名神を祀る。**神産巢日神**（カミムスビ）の御子、少彦名神は大国主神と出雲の国造りのために力を発揮され、共に医薬治療の法を定められた**薬の神様**として崇められる。お姿は天乃羅摩船（アマノカミフネ）（ガガ任の鞆の船）に乗る小さな神様で、まだ国作りも終わらないのに、常世の国に渡ってしまわれたとの由。



久延彦神社（知恵の神様）

祭神 久延毘古命

大国主神に少彦名神の名前を証言した「崩彦」(ワヒコ)が「山田の曾富膳(ツボド)」と言われ、案山子の神様。

『足は行(ツル)かねど、天下の事を尽(トト)に知れる』神様と言われ、歩く事は出来ないが、居ながらにして天下の事は何でも知っておられる神様で大国主神を助けた。知識が比類なく豊富なことより、『知恵の神様』として、広く受験・進学・就職等の成就をお守り下さる神様。



大直彌子神社（若宮神社）

祭神 大直彌子命(オホナカノミコ)（意富多多泥古命）



大物主神の曾孫 意富多多泥古命は崇神天皇に和泉国陶邑(スミタ)から召し出されて、大神神社の初代の神主となり、大三輪大神・大物主神を三輪山にお祀りされる。

その後 意富多多泥古命は大直彌子神社に若宮様として祀られた。奈良時代には神仏習合で大神寺、のちに大御輪寺となり若宮様と十一面観音像が併祀された。十一面観音像は現在、桜井市・聖林寺に慶応四年(1868年)に移され、国宝「乾漆十一面観音像」としてお祀りされている。

三輪山登拝案内図

【禁止事項】

- ・ 煙草・焚き火などしないこと。
- ・ 撮影をしないこと。
- ・ ゴミを放置しないこと。

【入山心得 十箇条】

- 一、三輪山は神体山です。敬虔な気持ちでの登拝をお願いします。
- 二、入山前に各自御幣(賽銭箱横)でお祓いをして下さい。
- 三、入山中は、「三輪山参拝証」の標を首にかけて下さい。
- 四、行程は上り下り約四kmです。
- 五、登下山に要する時間は普通二〜三時間です。
- 六、山中での飲食は出来ません。
- 七、山中の草木・土・石は採取出来ません。
- 八、お供物は必ずお持ち帰り下さい。
- 九、宗教活動及び勧誘行為などは慎んで下さい。
- 十、下山は午後四時までに完了願います。

緊急時 所在確認 標柱
(緊急連絡先記載)

⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①
奥津いわくら	やしろ前	こもれば坂	鳥さんしょう	中津いわくら	水呑台	三光の滝	中の沢	丸太橋

※緊急連絡先※
三輪明神 大神神社社務所
電話 0744-4216633